

『「韓国からの通信」の時代』

韓国・危機の15年を 日韓のジャーナリズムは いかにたたかったか』

1972年10月、**朴正熙**大統領は国会を解散して全国に非常戒厳令を宣布、大学を休校にし、新聞・通信は事前検閲の下に置くことを告げた。さらに「維新憲法」を公布し、「一人独裁の半永久的体制」をもくろんだ。

この「十月維新」体制から、1987年**全斗煥**政権下の「6月抗争」に至るまでの、およそ15年におよぶ軍事独裁政権の時代、韓国の学生・キリスト者・市民は、自由と民主主義を求めて、各地で多くの犠牲を出しながらも、不屈のたたかいを続けた。

メディアは、政権批判はおろか抵抗運動の報道すらできなくなったが、たえかねた『東亜日報』記者たちは「自由言論実践宣言」を発表、外部干渉と機関員の出入り等を拒否する。また政府の圧力による広告一斉引き上げという弾圧には「白紙広告」で対抗するなど、一進一退を繰り返しながらも、メディアも“民主争取”のたたかいに参画していった。

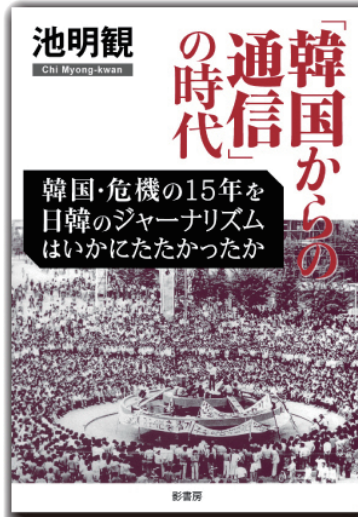
また、『朝日新聞』など日本のメディアも、**金大中**拉致事件や民主化運動の動静を詳しく報じ、韓国メディアの沈黙を補う役割を担い、隣国の痛みに「共感をもって参与」した。

当時“T・K生”の筆名で『世界』(岩波書店)誌上で韓国内の政治・民主化運動の情勢をレポートし、韓国国外から運動を支えた著者が、



同時代の『東亜日報』(韓国全国紙)・『韓国からの通信』(『世界』連載)・『朝日新聞』(日本)の3紙誌を再読・整理し直し、“韓国民主化の時代”を詳らかに再現する。

ISBN978-4-87714-475-3



46判・並製 422頁

税込4,536円
のところ

特別価格
4,000円
税・送料込み

池明観 (チ・ミョンクワン) プロフィール

1924年平安北道定州(現北朝鮮)生まれ。ソウル大学で宗教学を専攻。朴正熙政権下で言論面から独裁に抵抗した月刊誌『思想界』編集主幹をつとめた。1972年来日。74年から東京女子大客員教授、その後同大現代文化学部教授。

雑誌『世界』(岩波書店)に73年5月号から88年3月号まで“T・K生”の筆名で『韓国からの通信』を連載。(のちに岩波新書から『韓国からの通信』『続 韓国からの通信』『第三・韓国からの通信』『軍政と受難—第四・韓国からの通信』として再編・刊行)

93年に韓国に帰国し、翰林大学日本学研究所所長をつとめる。98年から金大中政権の下で韓日文化交流の礎を築く。

【主要著作】
『T・K生の時代と「いま」—東アジアの平和と共存への道』(一葉社)、『韓国と韓国人—哲学者の歴史文化ノート』(アドニス書房)、『池明観自伝—境界線を超える旅』(岩波書店)、『韓国現代史—1905年から現代まで』、『韓国文化史』(いずれも明石書店)、『韓国史からみた日本史—北東アジア市民の連帯のために』(かんよう出版)。デジタル版『現代の理論』(<http://gendainoriron.jp/>)に『韓国の現代史とは何か—終末に向けての政治ノート』を連載中。

購入申込書 (特別価格)

富坂キリスト教センター関係者の皆さま

9月28日に発売予定の池明観様の新刊書籍をご案内させていただきます。このたび、こちらのチラシをご利用の上、ご注文いただいた皆さまには、特別価格にてお分けいたします。

多大な犠牲をとめないながら、軍事政権を退け、民主主義を勝ちとった韓国の経験から、立憲民主主義の危機にある日本の市民が学ぶことは多いと思います。多くの方にお読みいただければ、ありがたく存じます。

※ご注文は、⇒[FAX:03-3817-7255、e-mail:okada@ceam.asia 富坂キリスト教センター・岡田様宛]へお願い致します。(影書房)

池明観 著 『「韓国からの通信」の時代』

—税込4,536円 ⇒ 特別価格 4,000円 (消費税、送料込み)

冊

お客様
氏名:

電話
番号:

ご住所 〒